

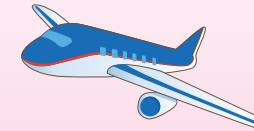
東京都立多摩図書館児童青少年資料係では、  
子供の本や読書についての  
ご質問、ご相談をお受けしております。

いつでも気軽にご利用ください。

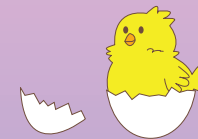
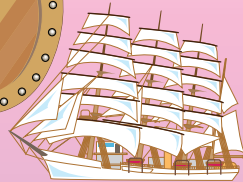
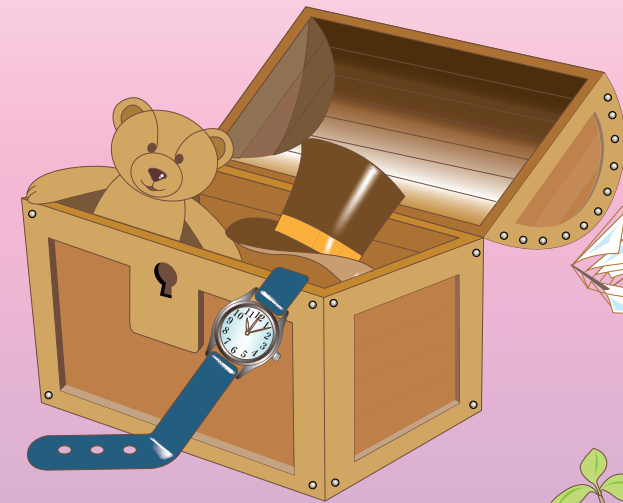
東京都立多摩図書館  
電話 042-524-6428 (児童青少年資料係ダイヤルイン)  
こどもページ <http://www.library.metro.tokyo.jp/c>



# ほん・本・ごほん 3



行ってみたいな やってみたいな  
たいせつなもの



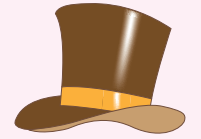
東京都子供読書活動推進資料2010

## ほん・本・ごほん 3

平成23年(2011)3月1日発行  
編集 東京都立多摩図書館  
発行 東京都立多摩図書館  
〒190-8543  
立川市錦町6-3-1  
電話 042-524-6428  
ファクシミリ 042-525-9168



東京都立多摩図書館



〈行ってみたいな やってみたいな〉

- うみ …………… 3
- とべたらいいな …… 5
- たび …………… 7
- しごと …………… 9
- じめんのした …… 11
- いたずら …………… 13
- かわ …………… 15
- おどり …………… 17
- ゆかいながっこう 19
- とくぎ …………… 21
- のうじょう …… 23
- ふね …………… 25

〈たいせつなもの〉

- にんぎょう …… 27
- ふく …………… 29
- いえ …………… 31
- りんご …………… 33
- ぼうし …………… 35
- いし …………… 37
- たね …………… 39
- とけい …………… 41
- たまご …………… 43
- なまえ …………… 45
- <sup>は</sup>歯 …………… 47
- ちえ …………… 49
- そのほかの本 …… 51
- さくいん …… 56

あなたは、どんな本が好きですか？  
 どんな本をよみたいですか？  
 うみの本？ いたずらの本？ それともにんぎょうの本？  
 この小さな本には、テーマごとに、  
 本が6さつずつ、しょうかいされています。  
 あなたがよみたいテーマがあったら、  
 そこからおもしろいほんをさがしてみてください。

テーマはぜんぶで24あります。

- 🌱 印は、おおよそのめやすです。
- 🌱 は、小学生ならだれでもたのしめます。
- 🌱🌱 は、3年生くらいからたのしめます。
- 🌱🌱🌸 は、5年生くらいからたのしめます。

**ちしきのほん** は、物語ではなく、実際にあったことをもとにして書いてある本です。

よみたいと思った本が、学校にないときには、近くの公共図書館でかりてください。

どうぞ、この小さな本をみちあんないに、おもしろい本、楽しい本とであってください。

※「ほん・本・ごほん1」「ほん・本・ごほん2」でもおなじようにテーマごとに本をしょうかいしています。

とりつたまとしょかん



# うみ

## 1 うみべのハリー

ジーン・ジオン 文  
マーガレット・ブレイ・グレアム 絵 わたなべしげお 訳  
福音館書店 978-4-8340-0098-6

犬のハリーは、海べはだいすきだけど、かんかんでのお日さまだけは、にがてです。うちの人のビーチパラソルは、まんいん。こどもたちのすなおしろにもぐりこんだり、ふとったおばさんのかげに入ってあるいたり。でもどこへ行っても、おいはらわれてしまいます。



## 2 海のおばけオーリー

M. H. エッツ 文・絵 石井桃子 訳 岩波書店  
978-4-00-110567-4

海べで生まれたアザラシの赤ちゃんが、おかあさんのそばでねむっています。おかあさんはおなががすいて、さかなをたべに海に入っていました。そのあいだに、すいへいがきて、あかちゃんをひろい、動物屋にうりました。動物屋の主人はオーリーと名まえをつけて、そだてます。

## 3 うみのべっそう

竹下文子 作 沢田としき 絵 佼成出版社  
978-4-333-01982-3

おじさんからはがきがきた。「うみのべっそうをかりました。あそびにおいで」ぼくは海べへむかった。おじさんとふたりで海にとびこむと、あれれ。海の中なのに、くるしくない。さんごの林やわかめの森をぬけていくと、大きなまきがいのべっそうがあった。



## 4 宝島

スティーヴンスン 作 海保真夫 訳 岩波書店  
978-4-00-114528-1

ジム少年は、思いがけないことから、大海賊が宝をかくした島の地図を手に入れました。ジムは、医者のリグシー先生やトリローニさんと宝島を目指して、船出します。船員の中には、宝をねらう海賊たちがまがれている様子。ジムはぐうぜん、リンゴだるの中で海賊たちの話を聞いてしまいます。



## 5 海へ出るつもりじゃなかった

アーサー・ランサム 作 神宮輝夫 訳 岩波書店  
978-4-00-115037-7

ジョン、スーザン、ティティ、ロジャの4人兄弟は、ジム船長のヨットで川を下ることになります。お母さんとの約束は、海に出ないこと。ジムが留守の間、霧が出て何も見えなくなりました。突然、船が大きくゆれ、いかりをひきずって走り出しました。4人だけで海へ出てしまったのです。

## ちしきのほん

## 6 クジラ 大海をめぐる巨人を追って

水口博也 著 金の星社  
978-4-323-06081-1

ザトウクジラは、季節に合わせて、海を回遊しています。冬から春は、赤道に近い暖かい海で子育てをし、夏には、アラスカ周辺でたっぷりえさをとって過ごします。クジラが海面に体をおどらせるときに、尾びれの写真をとって、どのクジラがどこを回遊しているか、調査が行われています。



# とべたらいいな

## 7 ああ、たいくつだ！

ピーター・スピーアー 作 松川真弓 訳 評論社  
978-4-566-00282-1

ふたりのきょうだいは、ものおきごやでプロペラをみつけ、ひこうきを作ることになりました。うば車からしゃりんをはずし、家のまどわくやエンジンをとりだします。家じゅうからざいりょうをあつめてくみだてます。ひこうきにのりこみ、エンジンをかけると、プロペラがまわりはじめました。



## 8 おばあさんのひこうき

佐藤さとる 作 村上勉 絵 小峰書店  
978-4-338-01804-3

あみものめいじんのおばあさんがいました。ある春の夜、大きな黒いチョウチョがまどから入ってきました。おばあさんはチョウチョのはねを見ているうちに、おなじもようをあみたくなりました。なんどもやりなおして、やっと少しあめたとき、あみものがふわふわとうきあがってきたのです。

## 9 エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット 作  
ルース・クリスマン・ガネット 絵  
わたなべしげお 訳 福音館書店 978-4-8340-0013-9

エルマーが空をとんでみたいと友だちののらネコに言うと、ネコは、かわいそうなりゅうの子の話をしてくれました。りゅうは、おもいにもつをもって、川の上をとばされているということです。エルマーは、りゅうをたすけにでかけます。にもつは、ガム、はブラシ、くし…。



## 10 飛んだ子ブタダグギ

ディック・キング=スミス 作 木原悦子 訳  
メアリー・レイナー 絵 評論社 978-4-566-01247-9

子ブタのダグギは、兄弟中で一番小さく生まれました。おまけに前足がひづめではなく、犬の足のようです。でもとなりのおばさんブタが、この子には何か特別なことがある、飛ぶかもしれないといいました。なんてすてきでしょう。ダグギは、いっしょうけんめい飛ぶ練習をします。



## 11 ニルスのふしぎな旅 上下

セルマ・ラーゲルレーヴ 作  
ベッティール・リーベック 画 菱木晃子 訳 福音館書店  
978-4-8340-2273-5, 978-4-8340-2274-2

ある日、ニルスは、ガチョウのモルテンの背に乗って、ガンの群れといっしょに遠いラップランドまで行くことになります。見おろすと麦畑や牧場、原っぱが広がり、まるでチェックの布地のようです。ここは穀倉地帯です。ガンたちが大きな声で呼びかけると、農家のニワトリたちが答えます。



## ちしきのほん

## 12 飛行機の歴史

山本忠敬 著 福音館書店  
978-4-8340-1585-0

昔から、人類は空を飛ぶことをゆめみてきました。鳥のように羽をつけて飛ぼうとした人もいます。初の空中飛行は 1783 年。2 人のフランス人が熱気球で 25 分間、飛びました。それから 120 年、多くの人々がグライダーの研究と実験にいとどみ、ついに 1903 年ライト兄弟のフライヤー号が 59 秒の飛行に成功します。



# た び

## 13 あおい目のこねこ

エゴン・マラーセン 作・絵 せたていじ 訳  
福音館書店 978-4-8340-0040-5

あおい目のげんきな子ネコが、ネズミの国をさがしにでかけました。なにしろ、ネズミの国をみつけたら、もうおなかをすかすことがありません。けれども、さかなにきいても、ハリネズミにきいても、きいろい目のネコたちにきいても、ネズミの国をしりません。



## 16 精霊の守り人

上橋菜穂子 作 二本真希子 絵 偕成社  
978-4-03-540150-6

女用心棒のバルサは、急流に落ちた皇子チャグムを助けました。皇子の母は、バルサの腕を見こんで、帝に命をねらわれているチャグムを王宮から連れ出し、生きのびさせてほしいと頼みます。こうしてふたりの危険な旅が始まります。



## 14 マウルスとマドライナ

アロウ・カリジェ 文・絵 大塚勇三 訳  
岩波書店 978-4-00-110574-2

マウルスは山に住むヒツジかいの男の子。大都会に住むいとこのマドライナに会いに行くことになりました。朝早く家を出て、山をのぼり、細い道をたどり、雪原をこえていきました。町におりると、こんどは列車に乗ります。「タタンタタン」もうすぐマドライナに会えます。



## 17 王への手紙 上下

トンケ・ドラフト 作 西村由美 訳 岩波書店  
978-4-00-114574-8, 978-4-00-114575-5

騎士見習いのティウリは、修行の最後の晩に助けを求める声を聞きます。応えれば、行を破ることになり、騎士になれないかもしれません。それでもティウリは、死んでゆく騎士からとなりの国王へ秘密の手紙を届けることを約束します。それは高い山や川の関所をこえる長い旅になりました。

## 15 木馬のぼうけん旅行

アーシュラ・ウィリアムズ 作 ペギー・フォートナム 画 石井桃子 訳 福音館書店 978-4-8340-1910-0

おもちゃ作りのおじいさんが、きれいな小さい木馬を作りました。おじいさんと木馬は幸せにくらしていましたが、おじいさんが病気になってしまいます。木馬は旅に出ました。お金をかせごうと思ったのです。農場や港や炭こう、行く先々でいっしょうけんめい働きます。



## ちしきのほん

## 18 戦争をくぐりぬけたおさるのジョージ 作者レイ夫妻の長い旅

ルイーズ・ボーデン 文 アラン・ドラモンド 絵 福本友美子 訳 岩波書店 978-4-00-110887-3

ジョージの絵本の作者レイ夫妻。70年前、2人はパリで絵本の仕事をしていました。ドイツ軍がポーランドにせめよせ、ヨーロッパで戦争が始まります。レイ夫妻は、自転車で危険なパリを脱出し、自由の地を目指してペダルをこぎます。荷台にジョージの原稿を乗せて。



# しごと

## 19 すんだことはすんだこと

ワンダ・ガアグ 再話・絵 佐々木マキ 訳 福音館書店  
978-4-8340-0506-6

むかしおやじさんとおかみさんがいました。まい日おやじさんは、はたけしごと、おかみさんはいえのしごとをして、いっしょうけんめいはたっていました。それなのにおやじさんは、じぶんの方がたいへんだともんくをいいました。そこで、ふたりはしごとをとりかえることにしました。



## 22 ネコのタクシー

南部和也 作 さとうあや 絵 福音館書店  
978-4-8340-1759-5

ネコのトムは、タクシーの運転手。トムのタクシーには、タイヤとハンドルはついていますが、エンジンはついていません。エンジンのかわりに、トムがお客をのせて、走るのです。だってトムは走るのは得意ですからね。タクシーにはお客がつぎつぎのってきます。



## 20 メアリー・アリス いまなんじ?

ジェフリー・アレン 文 ジェームズ・マーシャル 絵  
小沢正 訳 童話館出版 978-4-924938-31-1

アヒルのメアリー・アリスは、でんわサービス会社ではたっています。正しいじこくをつたえる、きびきびしたしごとぶりは、町のみんなのお気にいり。ある日、メアリーは、かぜをひいてしまいました。めんどうり社長は、メアリーのかわりに、いろいろなどうぶつにしごとをさせてみます。



## 23 子ブタシープピッグ

ディック・キング=スミス 作 メアリー・レイナー 絵  
木原悦子 訳 評論社 978-4-566-01245-5

子ブタのバイブは、犬のフライに育てられました。フライは、ヒツジたちの番をするシープドッグです。バイブは、自分も勉強して「シープピッグ」になろうと決心します。ヒツジの代わりにアヒルの群れをまとめようと走り回ったり、年寄りのヒツジから話を聞いたり…。



## ちしきのほん

## 24 ただいまお仕事中 大きくなったらどんな仕事を してみたい?

おちとよこ文 秋山とも子 絵 福音館書店  
978-4-8340-1616-1

仕事のプロ28人に話を聞きました。花はきれいだけれど、花屋の仕事は、重いものを持ったり、重労働です。美容師は、10人中3、4人しか残らないきびしい世界、あきらめないことが大切。社長の心得は、なにより会社をつぶさないことだし、歌手はかぜをひいてはいけないんですって。



## 21 ねずみのとうさん アナトール

イブ・タイタス 文 ポール・ガルドン 絵 晴海耕平 訳  
童話館出版 978-4-924938-33-5

ネズミのアナトールは、人間がネズミをきらっているのを知り、ショックを受けます。なんとか人間に喜んでもらいたいと、夜のチーズ工場にしのびこみ、チーズの味見をして、どうすればもっとおいしくなるか、工場の人に伝える仕事を始めました。

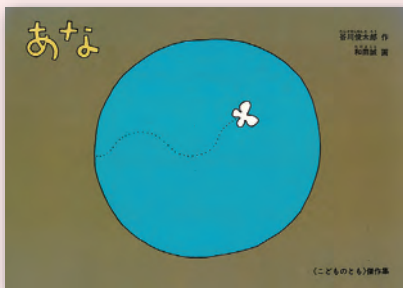


# じめんのした

## 25 あな

谷川俊太郎 作 和田誠 画 福音館書店  
978-4-8340-0921-7

日よう日のあさ、ひろしはあなをほりはじめます。おかあさんがきても、いもうとのゆきこがきても、となりのしゅうじくんがきても、おとうさんがきても、ひろしはあなをほりつづけます。「もっとほるんだ、もっとふかく」と、ひろしはおもいます。



## 26 根っこのこどもたち 目をさます

ジビレ・フォン・オルファース 絵  
ヘレン・ティーン・フィッシュ 文 いしいもこ 訳・編  
童話館出版 978-4-88750-043-3

春がゆっくりちかづいてきました。じめんの下では、土のおかあさんが、ぐっすりねむっていた根っこのこどもたちをおこします。さあ、いそがしくなりました。根っこの女の子たちは、春にきるふくをぬい、男の子たちは虫たちをおこして、きれいにいろをぬってやるのです。

## 27 のねずみチュウチュウ おくさんのおはなし

ビアトリクス・ポター 作・絵 いしいもこ 訳  
福音館書店 978-4-8340-1862-2

チュウチュウおくさんは、いけがきの下のあなの中にすんでいました。とてもきれいすきで、いつもいえをそうじています。それなのに、よびもしないテントウムシやマルハナバチや、びしょぬれのカエルがやってきて、チュウチュウおくさんのいえをよごすのです。



## 28 地下の洞穴の冒険

リチャード・チャーチ 作 大塚勇三 訳 岩波書店  
978-4-00-113140-6

夏休みにジョンは、<sup>ほら</sup>洞穴を発見し、仲間4人と探検することにしました。ロープ、あかり、食料、水、磁石などを用意して、せまい入口から入ると、<sup>かい</sup>おくの方は広い空間が広がり、懐中電灯で照らすと、<sup>しやうにゅう</sup>鍾乳石がキラキラ光っています。5人がロープで体をつなぎ、岩だなを進んでいくと……。

## 地下の洞穴の冒険



## 29 お姫さまとゴブリンの物語

マクドナルド 作 脇明子 訳 岩波書店  
978-4-00-114108-5

昔、山おくの館にお姫さまが住んでいました。山の地下には、多くの人が働き、鉱石をほり出していました。ガーディもそのひとりでした。しかし地下には、おそろしいゴブリンもいて、お姫さまをさらおうと悪たく<sup>ひめ</sup>みをしていました。それを知ったカーディは、お姫さまを守ろうと決心します。

## ちしきのほん

## 30 地面の下のいきもの

松岡達英 絵 大野正男 文 福音館書店  
978-4-8340-0800-5

じめんの下には、わたしたちがふだんみることのできないいきものがたくさんくらしています。アリやクロアナバチは巣をつくるし、セミのようちゅうは木の根っこのしるをすって、大きくなります。モグラは、じめんの下で赤ちゃんをそだて、アオガエルも土のあなの中でたまごを生みます。



# いたずら

## 31 ろけとこざる

H. A. レイ文・絵 光吉夏弥 訳 岩波書店  
978-4-00-110924-5

サルのはじめは、いたずらをして、ゆかにインクをこぼしてしまいました。きれいにするには、せっけん和水だとはじめはおもいました。そこで、こなせっけんをひとはこかけて、水をホースでまいたら、へやじゅうがあわだらけになってしまいました。



## 32 ベーロチカとタマーロチカのおはなし

L. パンテレエフ 作 浜田洋子 絵 内田莉紗子 訳  
福音館書店 978-4-8340-1367-2

ある日、ベーロチカとタマーロチカは、ふたりだけでかいがんへ行きました。おかあさんに、水あそびはしませんとやくそくをしたのに、二人はふくをぬいで、水に入ってしまった。はったり、およいだり、たのしくあそんで、はまにあがると、ふくがなくなっています。

## 33 モグラ原っぱのなかまたち

古田足日 作 田畑精一 絵 あかね書房  
978-4-251-06361-8

かぼちゃにマジックでかおをかきました。なみだで塩を作ろうとして、赤ちゃんを泣かせました。そうじきで、虫をすいとりました。じゅぎょう中に、スギでっぽうを飛ばしました。みんなあきらたち4人組がやったこと。いたずらもあるけれど、まじめにやったこともあるんですよ。



## 34 いたずらっ子オーチス

ペバリイ・クリアー 作 松岡享子 訳 学習研究社

オーチスはちょっとしたさわぎを引き起こすのが大好きな男の子。学校のおまつりでダンスをおどることになり、オーチスはとうぎゅうの役になりました。本番でオーチスは、しっぽを追いかけて、ねころんだり、大あばれ。とうぎゅうし役の子がおこって「やめろ」とどなると、観客は大喜び。



## 35 トム・ソーヤーの冒険

マーク・トゥエイン 作 八島太郎 画 大塚勇三 訳  
福音館書店 978-4-8340-0457-1

トムは日曜日、教会で牧師さんのたいくつなお説教にあきあきしていました。黒い大きなカブトムシを取り出して、通路にはじきとばすと、犬がやってきて、カブトムシにかまれてキャンと悲鳴をあげました。近くの人たちは笑いをこらえ、トムはすっかりうれしくなりました。

## ちしきのほん

## 36 てじなでだましっこ

佐伯俊男 作 福音館書店  
978-4-8340-1069-5

女の子がつぶチョコをふると、がらごらと音がします。男の子に「おみやげよ」とあげました。でも中はからっぽ。ちゃんと音がしていたのに、どうして？ 女の子がうでをまくと、もうひとつのつぶチョコがわゴムでとめてあります。こっちが音をたてていたんですね。





# かわ

## 37 うんがにおちたうし

フィリス・クラシロフスキー 作  
ピーター・スパイアー 絵 みなみもとちか 訳  
ポプラ社 978-4-591-01888-0

ウシのヘンドリカは、オランダのまきばにすんでいます。くさをたべて、ミルクを出すまいにちに、あきあき。にぎやかな町を見たくてたまりません。そこである日、きばこにのってうんがをくだっていきました。きれいないえやにぎやかな人を見て、うれしくて「モウ」となきました。



## 38 川はながれる

アン・ランド文 ロジャンコフスキー 絵  
掛川恭子 訳 岩波書店  
978-4-00-115152-7

とおい北国の山おくでゆきがとけて、ちいさい川が生まれました。くねくね、きらきら、はしる川に、森のどうぶつたちはおよろこび。川は、岩から岩へながれおち、ビーバーのプールに水

をいれ、へいやをとおり、みずうみにながれこみました。それからまた、たびをつづけます。

## 39 アライグマ博士と仲間たち

ベン・ルーシャン・バーマン 作 アリス・キャディ 画  
木島始 訳 福音館書店 978-4-8340-1901-8

ミシシッピー河のナマズ入江では、いつもひどい洪水がおきます。入江に住むアライグマ、ウシガエル、ウサギ、クロヘビ、キツネは、洪水に流され、命からがら小さな島に着きました。みんなは、たがいにたたかったり、食べたりしないという協定をむすび、小さな島で生きのびます。



## 40 たのしい川べ ヒキガエルの冒険

ケネス・グレアム 作 石井桃子 訳 岩波書店  
978-4-00-110817-0

春の朝、大そうじをしていたモグラは、とつぜんじっとしてられなくなって、家をとび出しました。あてもなくぶらつくうち、満々と水をたたえて流れる川というものを、初めて見たのです。川ネズミがボート遊びにさそってくれました。バスケットにごちそうをいれて、さあ出かけよう。



## 41 ハヤ号セイ川をいく

フィリップ・ピアス 作 E.アーディゾーニ 絵  
足沢良子 訳 講談社 978-4-06-147135-1

デビッドとアダムは、カヌーのハヤ号に乗って、セイ川で遊んでいました。でも本当は、失われた宝物をひそかに探していたのです。それはアダムの先祖が400年以上前に、どこかにかくしたものでした。ただひとつの手がかりは、短い詩。詩の暗号をとこうと、ふたりは川を上ったり下ったりします。

### ちしきのほん

## 42 たまがわ 日本の川

村松昭 作 偕成社 978-4-03-437710-9

山にふった雨が小さなながれになって、そのながれがあつまって川になります。川がなんぼんもいっしょになって、たまがわになりました。そのはじまりから、海に出るまでが、えちずになっています。ダム、てっきょう、おんせん、はつでんしょ、つりをしている人、キャンプじょう…。



# おどり

## 43 ねこのくにのおきゃくさま

シビル・ウェッタシンハ 作 まつおかきょうこ 訳  
福音館書店 978-4-8340-1364-1

ネコのくにの人たちは、みな、はたらきもの。何ふじゆうないくらしをしていましたが、何か足りませんでした。ある日、海のむこうから、ふねがあらわれて、みたこともない人がふたりおりてきました。ふたりは、たいこをたたいたり、おどったり、おもしろいことをはじめました。



## 46 ひとりっ子エレンと親友

ベバリイ・クリアー 作 松岡享子 訳 学習研究社

エレンは、お母さんが着せる毛糸の下着が大きい。そんなきゆうしきの下着を着ている人はいません。バレエ教室では、こっそり下着をパンツのゴムにはさみ、その上からコスチュームを着るのです。おどると、するするっと落ちてくるので、エレンは、下着をひっぱり上げながら、おどります。



## 注文の多い料理店

イーハートヴ重話集

宮沢賢治 作



## 47 鹿踊りのはじまり

『注文の多い料理店』から

宮沢賢治 作 岩波書店 978-4-00-114010-1

嘉十がススキの野原に忘れた手ぬぐいを取りにもどると、シカたちがそのまわりをぐるぐるまわっていました。そのうち一匹がうたいだし、みなでおどりながら、手ぬぐいを角でついたり、ふんだりしました。嘉十は、自分もシカのような気がして、いまにも飛び出しそうになりました。

## ちしきのほん

## 48 たのしいおまつり ナイジェリアのクリスマス

イフェオマ・オニェフル 作・写真  
さくまゆみこ 訳 偕成社  
978-4-03-328560-3

ぼくは、ナイジェリアにすんでいます。ことしのクリスマスには、かめんをつけて、「モー」になろうとおもっています。クリスマスには、村では、たくさんのダンスのグループがくりだして、おどりをおどります。ぼくも、「モー」になっておどります。



## 44 ヤンとスティッピー

ベツィー・バックス 作 のざかえつこ 訳  
ブックローン出版

えきいんのヤンは、おどりが大すき。しごと中でもひらりひらりとおどります。とうとう、ある日、ほかのえきいんたちにおこられて、かしゃにのせられてしまいました。とおい町にたどりついたヤンは、子犬のスティッピーに

あいます。スティッピーは、かいぬしにすてられたのです。

## 45 バレエをおどりたかった馬

H・ストルテンベルグ 作 さとうあや 絵 菱木晃子 訳  
福音館書店 978-4-8340-1410-5

いなかですんでいた馬は、ある日、旅のバレエ団を道あないして、おれいにバレエを見せてもらいました。まるで、鳥がまっているように、高くとびあがったり、くるくる回ったり。馬はすっかりむちゅうになってしまいました。とうとう、町へ行って、バレエ学校に入る決心をしました。



# ゆかいながっこう

## 49 すずめのおくりもの

安房直子 作 菊池恭子 絵 講談社

谷あいの町のとうふやさんに、たくさんのスズメたちがやってきました。きょうは、スズメの学校の入学式。おいわいに、とうふを作ってほしいというのです。ゆのみぢやわん1ぱいほどのだいたすを水につけて、ミキサーにかけて、小さな小さなとうふを作ります。



## 50 おともだちにナリマ小

たかどのほうこ 作 にしむらあつこ 絵  
フレーベル館 978-4-577-03085-1

ハルオくんが学校へ行くと、先生が、しよくじをする時は、なるべくせきをしないといいました。6年生で一ばんかしこいやまもとさんが、こくばんに書きました。「なるび九、せ木お四ナイ」。つぎに先生は、「おいなりさんばかりを、たべない」といいました。きょうの学校は何だかへんです。

## 51 クローカ博士の発明 ベスコフ童話集

エルサ・ベスコフ 作・絵 小野寺百合子 訳 ブッキング

大学者のクローカ博士が、「教育機械」を発明しました。悪いこどもをこの機械に入れると、りっぱなこどもになって出てきます。朝6時に、ベッドがひっくりかえってこどもを起こし、シャワーも食事も自動的、勉強はレコードが教え、すべて時間わりどおり進みます。なんとすばらしい。



## 52 魔女学校の一年生

ジル・マーフィ 作・絵 松川真弓 訳 評論社  
978-4-566-01354-4

ミルドレッドは一年生。学校のせい服は、黒いジャンパースカート、黒いくつ下に黒いくつ、はい色のブラウスです。入学した日には、ほうきをもらいました。あしたは、ひとりひとりに黒ネコがわたされます。というのも、ミルドレッドの学校は、魔女をそだてる魔女学校なのです。



## 53 竜退治の騎士になる方法

岡田淳 作・絵 偕成社 978-4-03-646010-6

ぼくと優樹が、忘れ物をとりに、夕方の小学校にしのびこんだら、教室にだれかいた。その男は、中世の騎士のようなかっこうをして、「おれは竜退治の騎士やねん」と言うのだ。本当だろうか、ぼくたちが疑っていると、突然、目に見えない何かがやってきて激しい戦いが始まった。



## ちしきのほん

## 54 1ねん1くみの1にち

川島敏生 写真・文 アリス館  
978-4-7520-0504-9

1ねん1くみのきょうしつ。きょうは、どんな1日かな？ 1じかんめはこくご。「おおきなかぶ」をこえをそろえて、よみました。2じかんめは、せいかつ。はっぱをさがしに外へいきます。ぬのにはっぱをならべて、木づちでたたくと、もようがついた。さあつぎは、やすみじかん！



# とくぎ

## 55 絵かきさんになりたいな

トミー・デ・バオラ 作 福本友美子 訳 光村教育図書  
978-4-89572-645-0

トミーはえをかくのがどんなことより、いちばん好き。大きくなったらえかきさんになりたいと思っていました。年上のいとこが、ほんもののえかきになるには、まねをしてはだめ、とにかかいて、かいて、かきつづけることとおしえてくれました。トミーはそのとおりにしましたとも。



## 58 エルシー・ピドック、ゆめでなわとびをする

エリナー・ファージョン 作  
シャーロット・ヴォーク 絵  
石井桃子 訳 岩波書店 978-4-00-110872-9

エルシーは、生まれながらのなわとび名人。5つの時にはどの子より上手になり、7つの時には、ようせいのなわとびししょうが、ひじゅつを教えてくださいました。「早とび」では、すがたが見えません。「心配ごとはねとばせとび」では、だれもが笑い、「高とび」では月もとびこせます。



## 56 番ねずみのヤカちゃん

リチャード・ウィルバー 作 大社玲子 絵  
松岡享子 訳 福音館書店 978-4-8340-1099-2

ネズミのヤカちゃんは「やかましや」。おかあさんから「しずかに」といわれても、とてつもなく大きい声のでてしまうのです。ある日、ネコをみつけて「ねこだッ！」とさけぶと、ネコはびっくりして、かいだんからころげおち、それからは、ネズミをこわがるようになりました。



## 59 みどりのゆび

モーリス・ドリュオン 作 安東次男 訳 岩波書店  
978-4-00-115631-7

チトが植木ばちに土を入れて、おやゆびで穴をあけると、種もまかないのに、芽が出て花が咲きました。チトは、ふしぎな「みどりのゆび」の持ち主だったのです。おやゆびを地面や石のすきまやかざあなにおしつけて、刑務所や病院や町を植物でいっぱいになりました。

## 57 王さまと九人のきょうだい 中国の民話

君島久子 訳 赤羽末吉 絵 岩波書店  
978-4-00-110557-5

かおも、からだつきもそっくりの9人のきょうだいがいました。9人はそれぞれ、とくべつすごい力をもっていました。名前は、ちからもち、くいしんぼう、はらいっぱい、ぶつてくれ、ながすね、さむがりや、あつがりや、切つてくれ、みずくぐり。どんな人たちかわかりませぬ。



## ちしきのほん

## 60 ぼくは恐竜造形家 夢を仕事に

荒木一成 著 岩崎書店 978-4-265-04285-2

ぼくはこどもの時から恐竜が大好きで、今では恐竜の模型作りを仕事にしています。中学1年のとき、最初の恐竜を作りました。売っている模型は「どこかちゃうな」と不満だったので、なければ作ればよかったのです。博物館に通ったり、本を読んだり、高校生になっても恐竜一色。



# のうじょう

## 61 にぐるまひいて

ドナルド・ホール 文 パーバラ・クーニー 絵  
もきかずこ 訳 ほるぷ出版  
978-4-593-50139-7

10月、とうさんは、にぐるまにウシをつないで、この1年間かぞくが作ったものをつみこみました。とうさんがかりとったヒツジの毛、かあさんがおったショール、むすこが作ったぼうき、やさいばたけからほりだしたじゃがいも…。とうさんは10日がかりでポーツマスのいちばへむかいます。



## 62 ペニーさんと動物家族

マリー・ホール・エッツ 作・絵 松岡享子 訳  
徳間書店 978-4-19-860931-3

ペニーさんは、みごとに育った野菜や花、それから動物たちを農業祭に出すことにしました。動物たちは、入賞して賞金をたくさんもらったら、みんなでかんらん車に乗ろうと、大こうふん。でも馬のリンピーだけは、年をとっているのを出してもらえません。



## 63 シャーロットのおくりもの

E.B.ホワイト 作 ガース・ウィリアムズ 絵  
さくまゆみこ 訳 あすなろ書房 978-4-7515-1889-2

子ブタのウィルバーは、農場で幸せに暮らしていました。ところが、いずれベーコンやハムにされてしまうというのです。ウィルバーがワアワアなきだすと、友だちのクモのシャーロットが言いました。「命はたすけてあげるわ」シャーロットはウィルバーを救う方法を考えます。



## 64 指ぬきの夏

エリザベス・エンライト 作 谷口由美子 訳  
岩波書店 978-4-00-114160-3

暑くて雨が一滴も降らない日が続きました。ガーネットは兄さんと、農園を通りぬけて川に行きました。今まで川底だったところを歩きまわり、いろいろなものを拾いました。そのときキラリと光るものがありました。ガーネットがほってみると、それは銀の指ぬきでした。



## 65 農場の少年

ローラ・インガルス・ワイルダー 作  
ガース・ウィリアムズ 画 恩地三保子 訳 福音館書店  
978-4-8340-0410-6

アルマンゾは農場で、毎日家畜の世話をしています。アルマンゾは学校より、農場で働く方が好きです。9歳の誕生日には、子牛のくびきをもらいました。自分の子牛2頭にくびきをつけて、命令どおり歩くように訓練するのです。今は牛ですが、いつか自分の子馬を持つのが夢です。



## ちしきのほん

## 66 里山のおくりもの

今森光彦 写真・文 世界文化社  
978-4-418-08527-9

里山に春がきました。レンゲの花がさき、ミツをすいに虫たちがやってきます。でもレンゲ畑はすぐにたがやされて、棚田になりました。棚田は、だんだんになっている田んぼのこと。農家の人たちが1本1本いねのなえを植えていきます。夏にはいねがすすく育ち、生き物もたくさん住むでしょう。



# ふね

## 67 チムとゆうかな せんちょうさん

エドワード・アーディゾーニ 作 せたていじ 訳  
福音館書店 978-4-8340-1711-3

チムは、ふなのりになりたくてたまりません。そこで、ある日こっそり、きせんにのりこみました。けれど、せんいんに見つかり、せんちょうのところへつれていかれました。せんちょうは「おまえは、ただのりだから、そのぶんだけ、はたらかなければいかん」といいました。



## 68 ちびっこタグボート

ハーディー・グラマトキー 作  
わたなべしげお 訳 学習研究社  
978-4-05-202209-8

タグボートのしごとは、みなとで大きなふねをおしたり、ひっぱったりすることです。でもちびっこタグボートのトゥートゥは、しごとが大きらい。あそんでばかりいるので、だれもあいてにしてくれません。かなしくなったトゥートゥは、川を下り、あらしの海に出てしまいました。

## 69 町かどのジム

エリノア・ファージョン 文 エドワード・アーディゾーニ 絵  
松岡享子 訳 童話館出版 978-4-88750-024-2

ジムは、いつも町かどのポストのそばのミカン箱にすわっていました。むかし、船乗りだったジムは、デリーにおもしろい話をたくさんしてくれます。きりの中でたどりついた島でジムが王様になった話、大海へビが船に乗ってきた話、タラが大波の海で気分が悪くなった話・・・。



## 70 風のまにまに号の旅 あなくまビルのぼうけん

'BB' 作 D.J.ワトキンス=ピッチフォード 絵  
神鳥統夫 訳 大日本図書

あなくまビルは、風のまにまに号の船長になりました。初めての仕事は、ボトリーの銀行にお金をとどけることです。石炭船がーそう、こちらに向かってきました。ビルは、船を左よせて、スピードを落としました。ところが石炭船は、真正面からぐんぐん近づいてきます。



## 朝びらき丸 東の海へ

C.S.ルイス 作 瀬田貞二 訳



ナルニア国ものがたり3  
岩波書店

## 71 朝びらき丸東の海へ

C.S.ルイス 作 瀬田貞二 訳 岩波書店  
978-4-00-115023-0

エドモンドとルーシーとユースチスは、海を走っている帆船の絵を見ていました。すると、絵の波がうねりはじめ、額縁から波しぶきが飛び出して、3人を海へとさらいました。おぼれそうになった3人にロープを投げて救ってくれたのは、ナルニアの帆船、朝びらき丸でした。

## ちしきのほん

## 72 大帆船 輪切り図鑑

スティーヴン・ビースティアー 画  
リチャード・ブラット 文 北森俊行 訳 岩波書店

1800年頃のイギリスの大帆船。艦長が「帆をはれ」と命令をくだすと、水夫たちが甲板に上がり、すばやく帆を張り、船を走らせます。操舵手は舵輪をにぎって、正しい進路に船を進ませ、水夫たちはマストに登り、帆の調整をします。そうじ、道具の手入れなど仕事はたくさんあります。



# にんぎょう

## 73 まいごになったおにんぎょう

A. アーディゾーニ文 E. アーディゾーニ 絵  
石井桃子 訳 岩波書店 978-4-00-115144-2

小さなおにんぎょうは、だれもしらないうちにスーパーのれいとうの中におちて、まいごになってしまいました。たかくつまれたグリーンピースのはこが、大きなビルで、はことはこのすきまが、ほそいよこちょうのようでした。ある日、おんなの子が、おにんぎょうをみつけました。



## 76 ポケットのジェーン

ルーマー・ゴッデン 作 久慈美貴 訳 福武書店

人形のジェーンは、ビーズのクッションにすわり、人形の家でしずかにくらしていました。でも、ジェーンはぼうけんに出たいのです。何年もねがった後、とうとう元気な男の子ギデオンのポケットでくらしはじめました。ギデオンは、いっしょに木のぼりをして、ヨットにのせてくれました。



## 77 アナベル・ドールの冒険

アン・M. マーティン、ローラ・ゴドウィン 作  
ブライアン・セルズニック 絵 三原泉 訳 偕成社  
978-4-03-631520-8

アナベルの家族は人形の一家です。百年前につくられたドールハウスに住んでいます。アナベルたちは、人間の見ていないところでは、好きなように動きまわっています。もし人間に見られてしまったら大変、二度と動くことができなくなってしまうかもしれません。



## 74 ティリーのねがい

フェイス・ジェイクス 作 小林いづみ 訳 こぐま社  
978-4-7721-0134-9

ティリーは、にんぎょうのいえにすむメイドです。まいりょうりばんに、もっとはたらけとめいれいされていました。ある日、自由にらせるじぶんのうちをみつけようとけっしんし、にんぎょうのいえを出ます。そこでクマのエドワードにあい、ふたりであたらしいうちをさがします。



## ちしきのほん

## 78 いっしょにつくろう 絵本の世界をひろげる手づくりおもちゃ

高田千鶴子 ほか製作 村田まり子 絵 裴昭 写真  
福音館書店 978-4-8340-1246-0

にんぎょうを作ろう。それも大きくなえほんに出てくるにんぎょうを。ぐりとぐらやあおい目のこねこ、おだんごぱん、ラチとらいおん、エルマーのぼうけん…あなたの好きな人はだれですか？「つくるまえに」をよんでから、はじめるとだれでも作り方がわかります。



## 75 赤ちゃんをほしがったお人形

インキオフ 作 ライナー夫妻 絵 くりはらかずのぶ 訳 偕成社 978-4-03-431260-5

むかし、ロシアににんぎょうづくりのおやかたがいました。ある日、とてもよいおにんぎょうができたので、そばにおいて、まいにち話しかけていました。するとある朝、おにんぎょうが「あたし、赤ちゃんがほしいの」といいました。そこで、おやかたが赤ちゃんをつくってやると、大よろこび。



にんぎょう

にんぎょう

## 79 ペレのあたらしいふく

エルサ・ベスコフ 作・絵 おのでらゆりこ 訳  
福音館書店 978-4-8340-0462-5

ペレのふくが小さくなりました。そこでヒツジの毛をかりとって、あたらしいふくを作ることになりました。おばあちゃんにヒツジの毛をすいてもらうかわりに、ペレは、おばあちゃんのはたけの草むしり。すいた毛は、糸につむいで、そめて、ぬのにおらなくてはなりません。



## 80 おじいさんならできる

フィービ・ギルマン 作・絵 芦田ルリ 訳 福音館書店  
978-4-8340-1527-0

ヨゼフが赤ちゃんのとき、おじいさんがぬってくれたブランケットが、古くなりました。おじいさんは、「ふうむ、どれどれ、ちょうどいいものができるぞ」といいながら、はさみでちょきちょき、はりでちくちく、すーいすいとぬっていきます。すてきなジャケットができました。

## 81 すずめのくつした

ジョージ・セルデン 文 ピーター・リップマン 絵  
光吉郁子 訳 大日本図書 978-4-477-02079-2

アンガスのお父さんのこうばには、すばらしいきかいがあって、どんなくつしたでもあむことができます。ふゆのある日、友だちのスズメのブルースがさむそうにしていました。そこでアンガスは、こうばのきかいで小さなくつしたを作ってやりました。ブルースにはかせるとぴったり。



## 82 百まいのドレス

エリナー・エステイス 作 ルイス・スロボドキン 絵  
石井桃子 訳 岩波書店 978-4-00-115579-2

マデラインと同じクラスのワンダは、「あたし、うちにドレス百まい、持っているの」といいます。でもいつも同じ古ぼけた青いワンピースを着ています。女の子たちは、ワンダをからかうようになりました。マデラインはそれがいやでした。でもワンダの言葉は、本当だったのです。



## 83 ハリスおばさんパリへ行く

ポール・ギャリコ 著 亀山龍樹 訳 ブッキング

ハリスおばさんは、ロンドンに住むそうじのお手伝いさん。ある日、お客さんの家ですばらしく美しいドレスを見て、どうしてもほしくなりました。パリの有名デザイナー、ディオールのドレスです。おばさんは、パリへ行って、ディオールのドレスを手に入れようと決心します。

## ちしきのほん

## 84 ズボンとスカート

松本敏子 文・写真 西山晶 絵 福音館書店

世界には、スカートをはいている男の人もいれば、ズボンをはいている女の人もいます。見ただけでスカートかズボンかわからない服もあります。一枚のぬのをぐるっと腰に回せば、まきスカート、ぬののはしをまたにくぐらせれば、ズボンになります。ズボンとスカートどちらがうのでしょうか。





# い え

## 85 ちいさいおうち

ばーじにあ・りー・ぼーとん 文・絵 いしいもこ 訳  
岩波書店 978-4-00-110553-7

むかしむかし、ずっといなかのしずかなところに、ちいさいおうちがありました。ながいあいだ、ちいさいおうちは、おかのうからまわりのけしきをながめて、しあわせにくらしてきました。ある日、いなかのみちを車がはしってきました。つぎに広いどうろができ、たくさんのいえがたちました。



## 86 おおきな木がほしい

さとうさとる 文 むらかみつとむ 絵 偕成社  
978-4-03-330150-1

かおるは、大きな木がほしいとおもいました。木に、はしごをかけて、どんどん上へのぼり、木のまたのところにこやを作ります。こやにはテーブルといすをおき、ホットケーキをやいてたべます。春には花がさき、リスやとりたちもあそびにくるかもしれません。

## 87 おすのつぼにすんでいたおばあさん

ルーマー・ゴッデン 文 なかがわちひろ 訳・絵 徳間書店  
978-4-19-861360-0

むかし、おばあさんがおすのつぼのいえにすんでいました。おばあさんはびんぼうでしたが、ネコのモルトとしあわせにくらしていました。ある日、おばあさんは小さなさかなをみずうみにがしてやりました。するとさかなは、おばあさんのねがいをかなえてあげるといいました。



## 88 オンネリとアンネリのおうち

マリヤット・クレンニエミ 作 マイヤ・カルマ 絵  
渡部翠 訳 プチグラパブリッシング

オンネリとアンネリは、小さな女の子。夏休みになった日、ふたりは大金をひろいました。そのお金で「小さな女の子がふたりですむおうち」を買ったのです。おうちには、洋服かけに女の子用のコートが2着、ぼうしが2つ、客間にインコが2羽、台所に赤い木のいすが2つ、ありました。



## 人形の家

ルーマー・ゴッデン 作 瀬田貞二 訳 岩波書店



## 89 人形の家

ルーマー・ゴッデン 作 瀬田貞二 訳 岩波書店  
978-4-00-114067-5

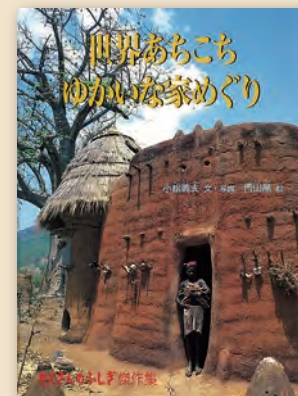
トチーは、小さなお人形。100年前に、上等な木で作られたので、今もつやつやしています。トチーは、くつばこの家にお人形の家族と暮らしていました。みんなの願いは、人形の家に住むこと。その家は、げんかんも居間も台所もあって、いろいろな道具や食器がちゃんとそろっているのです。

## ちしきのほん

## 90 世界あちこち ゆかいな家めぐり

小松義夫 文・写真 西山晶 絵 福音館書店  
978-4-8340-2073-1

モンゴルの草原の人々は、組み立て式の家、ゲルに住んでいます。馬や羊を放牧して暮らすには、いどうがかんたんなゲルが便利。中国には、厚い土のかべでかこまれた大きな丸い建物があります。この家には300人もの人たちが住んでいます。世界にはゆかいな家がたくさんあります。



# りんご

## 91 りんごのき

エドアルド・ベチシカ 文  
ヘレナ・ズマトリーコバール 絵 うちだりさこ 訳  
福音館書店 978-4-8340-0334-5

雪でまっしろなにわに、リンゴの木がありました。マルチンがそばにいくと、リンゴの木はきずだらけでした。たべものにこまったウサギがかじったのです。もうかじられないように、おとうさんがかなあみをはりました。それからマルチンは、せっせとリンゴの木のせわをしました。



## 94 ミス・ヒッコリーと森のなかまたち

キャロライン・シャーウィン・ベイリー 作  
ルース・クリスマン・ガネット 画 坪井郁美 訳  
福音館書店 978-4-8340-2074-8

ミス・ヒッコリーは、リンゴの小枝とヒッコリーの実でできたお人形です。家はトウモロコシのしんでできています。今日も松葉のほうきでせっせとおそうじをしていると、「ご在宅かな？」と黒い大きな頭のカラスが、しゃがれ声でまどから入ってきました。



## 92 あたまのうえにりんごがいくつ?

セオ・レスィーグ 作 ロイ・マッキー 絵  
たむらりゅういち 訳 ベンギン社  
978-4-89274-028-2

あたまのうえに、リンゴがいくつのせられる? 1こ? 2こ? 3こ? もっと、もっとのせられる? おまけに、あたまにリンゴをのつけたまま、なわとびだってできるかい? とんだり、はねたり、ミルクをのんだり。ぼくら3人、ぜんぶできるさ。



## 95 ミオよわたしのミオ

リンドグリーン 作 大塚勇三 訳 岩波書店  
978-4-00-115073-5

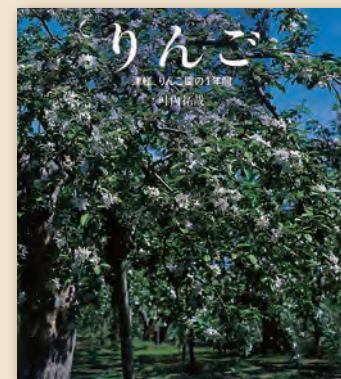
ボッセは養子でした。なぜほんのおとうさんやおかあさんといられないのだろうとよく思っていました。ある日、ボッセがもらった赤いきれいなリンゴは、いつのまにか金のリンゴになっていました。その金のリンゴが、ボッセを本当のおとうさんのところへ連れて行ってくれたのです。

## ちしきのほん

## 96 りんご 津軽りんご園の1年間

叶内拓哉 写真・文 福音館書店  
978-4-8340-2201-8

5月、リンゴ畑に白い花がさき、いかおりがたちこめました。農家の人たちは、よぶんな花をつみとる作業にたいそがし。そうするとおいしいリンゴが実るのです。ハチが、みつを集めて、受粉の手伝いをします。フクロウは、リンゴの根やみきをかじるネズミをとってくれます。



## 93 リンゴの木の上的おばあさん

ミラ・ローベ 作 塩谷太郎 訳 学習研究社

アンディは庭のリンゴの木の上でひとりぼっちでした。アンディはおばあさんがほしくてたまらないのです。友だちにはおばあさんがいるのに。ところが、とつぜんリンゴの木の上におばあさんがいたのです。白いまき毛に羽かざりのついたぼうし、花のししゅうがついた手さげをもって。



# ぼうし

## 97 イエペはぼうしがだいすき

石亀泰郎 写真 文化出版局  
978-4-579-40148-2

イエペは3さい。デンマークのコペンハーゲンにすんでいます。イエペは、いつもぼうしをかぶっています。ほいくえんにいくときにかぶります。あそぶときもかぶります。おべんとうのじかんもかぶります。ぼうしをかぶったままで、でんぐりがえしもできます。



## 98 ぼうしのおうち

エルサ・ベスコフ 作・絵 ひしきあきらこ 訳  
福音館書店 978-4-8340-1752-6

みずうみのまんなかのきれいなしまに、おかあさんとこどもたちがすんでいます。みんながすんでいるのは、だれかがわすれていったぼうしでした。ある日、おかあさんが出かけると、こどもたち

ちは、そうじをしようと、えんとつの中にもぐりこんで、まっくろになりました。

## 99 ふしぎな500のぼうし

ドクター・スース 作・絵 わたなべしげお 訳 偕成社  
978-4-03-348070-1

バーソロミューは、町で王さまのぎょうれつに会い、ぼうしをとりました。ところが、なぜか頭の上には、またぼうしがあったのです。あわててぼうしをとると、またぼうしがあらわれました！ いくらとってもぼうしがのっています。王さまはおこってバーソロミューをつかまえました。



## 100 聞き耳ずきん 「子どもに語る日本の昔話 2」から

稲田和子、筒井悦子 著 こぐま社 978-4-7721-9021-3

むかし、正直者のじいさまが、村のお宮の神様から、聞き耳ずきんという宝物をさずけてもらいました。それをかぶれば、鳥がさえずっているのも、木が話しているのも、みんなわかるということです。じいさまがかぶってみると、2羽のカラスのおしゃべりがきこえてきました。



## 101 たのしいムーミン一家

トベ・ヤンソン 作・絵 山室静 訳 講談社  
978-4-06-188222-5

ムーミントロールたちは、山の上で黒いぼうしを拾いました。それはまほうのぼうしで、中に入ったものは、別のものになってしまうのです。卵のカラは雲になるし、ムーミントロールは、太ったところはやせて、やせたところは太って、おかしい姿になってしまいました。

## ちしきのほん

## 102 屋上のとんがり帽子

折原恵 写真・文 福音館書店  
978-4-8340-2300-8

ニューヨークには、たくさんのビルがたっています。どのビルの屋上にも、とんがりぼうしのふしぎなものがあります。たくさん並んだとんがりぼうし。これは何？ その正体は「給水塔」。どれも木でできています。木の方が水がおいしいのです。でもどうやって屋上にのせたのでしょうか。



## 103 ロバのシルベスターとまほうの小石

ウィリアム・スタイグ 作 せたていじ 訳 評論社  
978-4-566-00835-9

シルベスターのたのしみは小石をあつめることです。ある日シルベスターは、赤くひかるまんまるの小石を見つけました。これをもって「雨がふらないかなあ」というと雨がふり、「天気になあれ」といえば天気になりました。これは、のぞみがなんでもかなうまほうの小石だったのです。



## 106 石のねずみ ストーン・マウス

ジェニー・ニモ 作 ヘレン・クレイグ 絵 安藤紀子 訳  
偕成社 978-4-03-431360-2

ストーン・マウスは、ネズミの形をした石でしたが、見ることも聞くこともできました。エリーが、ストーン・マウスを見つけて、話しかけてきました。「わあー、石のねずみだ！」 エリーがわらった時、ストーン・マウスには、自分のしんぞうが動いているのが、ちゃんとわかりました。



## 107 ブリジンガメンの魔法の宝石

アラン・ガーナー 作 芦川長三郎 訳  
評論社 978-4-566-01081-9

コリンとスーザンの兄妹は、オールダリーの村にきました。スーザンは、雨のしずくの形をした水晶の玉を持っていました。玉にはおくの方に青いほのおの柱が見えます。二人は、散歩のとちゅう、きみょうな女の人に話しかけられました。その時、玉にはずっとかすみがかかっていた。



## 104 あたまにつまった石ころが

キャロル・オーティス・ハースト 文  
ジェイムズ・スティープソン 絵 千葉茂樹 訳  
光村教育図書 978-4-89572-630-6

わたしの父は、こどものころから石をあつめていました。おとなになって、ガソリン・スタンドをはじめましたが、まだ頭が石ころのことでいっぱいでした。店にたなを作って、あつめた石をならべたのです。ひとつひとつの石には、ラベルもつけてありました。



## 105 小石投げの名人タオ・カム 「子どもに語るアジアの昔話 2」から

アジア地域共同出版計画会議 企画 松岡享子 訳  
こぐま社 978-4-7721-9026-8

タオ・カムはりょうあしが不自由で、一日中小石をとばしてあそんでいました。なんどもれんしゅうしているうちに、すばらしいわざを身につけました。頭の上の大きなバニヤンの葉っぱめがけて、つぎつぎと小石をとばして、葉っぱをゾウやヒツジの形にくりぬくことができるようになったのです。

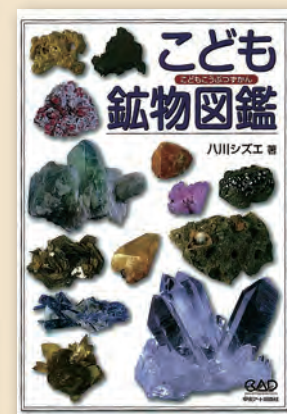


## ちしきのほん

## 108 こども鉱物図鑑

八川シズエ 著 中央アート出版社  
978-4-8136-0443-3

鉱物って何でしょう？ 1つまたは2つ以上の「元素」で組立てられた石のことです。岩塩やえんぴつのしんになる石墨のように役立つ鉱物、水晶やダイヤモンド、オパールなど美しい宝石、身のまわりにあるふつうの岩石に混じっているもの。鉱物にはいろいろあります。



# たね

## 109 そらいろのたね

なかわりえこ 作 おおむらゆりこ 絵  
福音館書店 978-4-8340-0084-9

ゆうじは、キツネとたからものを取りかえて、そらいろのたねをてにいれました。にわのまん中にたねをうめると、まめぐらいのそらいろのいえが出てきました。ゆうじはよろこびました。「うちがさいた！うちがさいた！」そして小さいいえにじょうろで水をかけました。



## 112 腰折れすずめ 「赤鬼エティン」から

東京子ども図書館 編 大社玲子 絵 東京子ども図書館  
978-4-88569-057-0

むかしあるところに、とてもやさしいおばあさんがいました。ある日、おばあさんは、庭で羽のおれたスズメを見つけました。かわいがって世話をし、けががなおると放してやりました。少したってから、スズメがお礼に、何かのたねを持ってきました。



## 110 たろとなーちゃん

きたむらえり 作・絵 福音館書店

ウサギのなーちゃんのところへ、おばあさんからてがみがきました。中には、デージーのたねが入っていました。なーちゃんは、はこに土を入れて、たねをぱらぱらとまきました。まいにち水をやると、ある朝、小さなまるいめが、24本ならんでいました。

## 111 みしのたくかにと

松岡享子 作 大社玲子 絵 こぐま社  
978-4-7721-0149-3

ある日おばさんが、何かわからない小さなたねをみつけてにわにまき、「とにかくたのしみ」とふだを立てました。そこへ王子さまがばしゃでとおりかかり、ふだをはんたいからよんで「みしのたくかにと？へんなの」と思いました。でもおもしろいのでなんどもつぶやきました。



## ムギと王さま

本の小べや1  
ファージョン作  
石井桃子訳



## 113 ムギと王さま

ファージョン 作 石井桃子 訳 岩波書店  
978-4-00-114082-8

ぼくが、お父さんのムギ畑にねころんで、ムギのつぶを食べていると、王さまがきた。ぼくが、金色のムギ畑を持っているお父さんは、エジプトの金持ちだと言うと、王さまはおこって、畑を焼きはらってしまった。ぼくは泣いた。なみだをふこうとしたら、手にムギのほがくっついていた。

## ちしきのほん

## 114 野をわたる風に乗る 植物のたび

アンネ・メッラー文・絵 今泉みね子 訳  
岩波書店 978-4-00-116210-3

タネは、車や飛行機に乗らないけれど、ゆかいな方法で旅をします。ツリフネソウは、さやがはじけて、タネを遠くへとばします。ニレやカエデのタネは、くるくるヘリコプターのように空中を回ります。動物の体について、遠くまで運んでもらうタネもあります。



# とけい

## 115 おおかみと七ひきのこやぎ

グリム童話

フェリクス・ホフマン 絵 せたていじ 訳  
福音館書店 978-4-8340-0094-8



7ひきの子ヤギがるすばんをしていると、おかあさんだよと戸をたたく音がしました。子ヤギたちが戸をあけると、入ってきたのは、オオカミでした。子ヤギたちは、あわててテーブルの下やとだなにかくれました。いちばんすえの子ヤギは、とけいのはこにかくれました。



## 116 ねぼすけはとどけい

ルイス・スロポドキン 作 くりやがわけいこ 訳  
偕成社 978-4-03-327990-9

スイスの小さな村のとけいやさんには、たくさんのはとどけいがならんでいます。じかになると、いっせいにハトがでてきて「ポッポー」となきます。その中に1羽だけ、いつもおくれてなくハトがいました。

## 117 時計づくりのジョニー

エドワード・アーディゾーニ 作 あべきみこ 訳  
こぐま社 978-4-7721-0147-9

ジョニーはものを作ることが大好きです。あるとき「大どけいをつくらう」とおもいつきました。けれど、小さなジョニーにはできっこないと言って、だれもあいてにしてくれません。ジョニーはへこたれず、木のいたをもってきて、とけいをいれるはこをつくりはじめました。



## 118 不思議の国のアリス

ルイス・キャロル 作 脇明子 訳 岩波書店  
978-4-00-114047-7

アリスが、土手にすわっていると、白ウサギがすぐそばを走っていきました。ウサギは、チョッキのポケットから時計を取り出すと「まにあいそうにもないぞ」とつぶやいて、また走りだしました。ウサギが時計を持っているなんて。アリスは、あとを追いかけて穴に飛びこみました。

## 不思議の国のアリス

ルイス・キャロル 作  
脇明子 訳



## 119 シェパートン大佐の時計

フィリップ・ターナー 作 神宮輝夫 訳  
岩波書店 978-4-00-110660-2

デイビドの家の仕事場には、シェパートン大佐が40年前に修理をたのんだ大時計が置かれたままでした。時計は今でも時をきざみ、大佐が引き取りに来るのを待っています。ある日、デイビドは古い新聞の切れはしを手に入れます。そこには「シェパートン大佐事件の評決」という記事がのっていました。



## ちしきのほん

## 120 海時計職人ジョン・ハリソン

船旅を変えたひとりの男の物語

ルイーズ・ボーデン 文  
エリック・ブレグバッド 絵 片岡しのぶ 訳  
あすなる書房 978-4-7515-2274-5

18世紀、海をこうかいする船は、せいかくな時計がないために、経度を知ることができませんでした。このなんもんにいどんだのがジョン・ハリソン。ジョンは40年かけて正確で美しい時計を5個作りました。どれも自分でアイデアを出し、せっけいした時計です。



# たまご

## 121 おしゃべりなたまごやき

寺村輝夫 作 長新太 画 福音館書店  
978-4-8340-0378-9

王さまは、朝から大いそがし。おしろの中をたっただ、とつとと走って、ニワトリごやまで来ると、そこには、ニワトリがぎゅうぎゅうづめ。王さまが、「これじゃあ、きゅうくつであそぶこともできないね」と、カギをあけると、ぎゅうづめのニワトリがとびだしてきました。



## 124 大うさぎのヘアーとイースターのたまご

アリスン・アトリー 作 マーガレット・テンベスト 絵  
河野純三 訳 評論社

春の夕方、大ウサギのヘアーは、村へ行って店をのぞきました。チョコレート色のたまごが山になっています。青や黄色のリボンでむすばれたイースターのたまご。ヘアーはこっそりしのびこみ、ひとつつかんで、にげだしました。たまごの中には小さなおもちゃのヒヨコが入っていました。



## 122 ぞうのホートンたまごをかえす

ドクター・スース 作・絵 しらきしげる 訳  
偕成社 978-4-03-348050-3

ゾウのホートンは、なまけどりのメイジーにたのまれて、たまごをあたためることになりました。あらしがきても、雪がふっても、たまごの上にじっとすわっていると、りょうしにいけどりにされてしまいました。たまごの上ですわったまま、ホートンは車にのせられました。



## 海のたまご

ルーシー・M・ボストン 作  
猪熊葉子 訳



## 125 海のたまご

ルーシー・M・ボストン 作 猪熊葉子 訳 岩波書店  
978-4-00-112142-1

ある朝海べで、トビーとジョーは、エビとりのおじさんから、たまごの形をした緑の石を手に入れました。海のたまごです。二人は特別なものが生まれるにちがいないと思って、しおだまりにかくしました。後で行ってみると小さな男の子の人魚がいて、青い目をきらきらさせていました。

## 123 もりのへなそうる

わたなべしげお 作 やまわきゆりこ 絵 福音館書店  
978-4-8340-0298-0

てつたくんとみつやくんは、森へたんけんに行きました。たからものをさがしていると、ふとくてたかい木のしたに、大きな大きなたまごがごろがっていました。てつたくんのせのたかさくらいもあって、赤ときいろのきれいなしまもようです。



## ちしきのほん

## 126 たまごのひみつ

清水清 著 あかね書房  
978-4-251-03345-1

ニワトリのたまごを温めるとヒナがかえります。黄身には、半分すきとおった白いものがついています。これが「はい」です。はいが育って、ヒナになるのです。あたたためて2日目に心ぞうが動き、3日目には脳ができ、ヒナはどんどん育っていきます。



# なまえ

## 127 だいくとおにろく

松居直 再話 赤羽末吉 画 福音館書店  
978-4-8340-0085-6

はしづくりをたのまれただいくが、ながれのはやい川を見ていると、川からぶっくり、おにがあらわれました。おには、おまえの目玉をよこしたら、はしをかけてやるとういしました。はしはあつというまにできあがりしました。おには、自分の名前をあてれば、目玉をとるのやめてやるとういします。



## 130 点子ちゃんとアントン

エーリヒ・ケストナー 作 池田香代子 訳 岩波書店  
978-4-00-114060-6

点子ちゃんの本当の名前はルイーゼです。でも、赤ちゃんのころとても小さかったので、「点」のように小さい「点子ちゃん」と呼ばれるようになりました。今では大きくなって「3×8は？」と聞かれると「120÷5」と答えることもできます。でもおかあさんはまだ「点子ちゃん」と呼ぶのです。



## くまのパディントン



## 128 くまのパディントン

マイケル・ポンド 作 ベギー・フォートナム 画  
岡岡享子 訳 福音館書店 978-4-8340-0108-2

ブラウン夫妻はパディントン駅で、スーツケースの上にこしかけた小さなクマに出会いました。おたがいに あいさつすると、クマは「ほんとのところ、名前がないんです」と言いました。ブラウンさんたちは、駅の名前をとってクマに「パディントン」と名づけました。



## 131 合言葉はフリンドル

アンドリュー・クレメンツ 作 笹森識 絵 田中奈津子 訳  
講談社

国語のグレンジャー先生は、犬はだれもが「犬」と呼んだから、その名前になったと言いました。それが言葉というものなのです。それを聞いたニックはペンを「フリンドル」と呼んだらどうなるか、試してみます。「フリンドル」は、友だちから学校へ、学校から国中へ広がっていきました。

## ちしきのほん

## 132 人名のひみつ

国松俊英文 熊谷さとし 絵 岩崎書店  
978-4-265-03941-8

日本は、世界でも一番名字のしゅるいの多い国で、約12万もあります。明治時代にだれでも名字を持つことがゆるされたので、そのときたくさんのお名前ができたのです。また同じ漢字でも読み方がちがう名前もあります。熊谷はくまがや、くまがい、くまたに、くまやと4しゅるいもあります。



## 129 ユウキ

伊藤遊 作 上出慎也 画 福音館書店  
978-4-8340-0629-2

おれと友だちになった転校生の名前は、みんな「ユウキ」だった。3人のユウキは、別の学校へ行ってしまった。6年生になった日、また転校生がきた。もしユウキという名前だったら、きっと友だちになれる、そんな気がした。教室に入ってきたのは女の子だった。名前はユウキ。





133 ダチョウのくびは  
なぜながい？  
アフリカのむかしばなし

ヴァーナ・アーダマ文 マーシャ・ブラウン 絵  
まつおかきょうこ 訳 富山房 978-4-572-00362-1

むかし、まだ、空とじめんが上と下にわかれただばかりのころ、ダチョウはみじかいくびでした。ダチョウが水をのんでいると、むしばがいたむワニがやってきて、ダチョウよう、あんたのつよくちばしで、あたしのむしばをひっこぬいておくれと、なみだをながしてたのみました。



134 わにのはいた

マーガリット・ドリアン文・絵 光吉夏弥 訳  
大日本図書 978-4-477-02080-8

ワニのアリのはが、ちくちくいたみます。いたくてよるもねむれません。とうとう動物園のえんちょうさんが、はいしゃに行くようにいいました。アリは、あたまをしゃんとさせて出かけましたが、はいしゃがこわくてしかたがなかったので、つい、ちがうバスにのってしまいました。



135 海べのあさ

ロバート・マックロスキー文・絵 石井桃子 訳  
岩波書店 978-4-00-110579-7

サリーは、歯がぬけそうです。ぬけた歯をベッドの下に置いて、おねがいごとをすると、かなうと、おかあさんがいいました。ところがサリーが、すなはまで、ハマグリをほっているうちに、ぐらぐらの歯が口の中からなくなってしまいました。すなをほっても見つかりません。



136 ぐらぐらの歯  
きかんぼのちいちゃいもうと1

ドロシー・エドワーズ 作 酒井駒子 絵 渡辺茂男 訳  
福音館書店 978-4-8340-2154-7

きかんぼのちいちゃい妹は、ある日、大きいリンゴをひとかじりしました。すると口の中で何かが折れたようなへんな感じがしました。口の中に指をいれてみると、小さい歯が、ぐらぐらしています。妹は、ぐらぐらの歯があるなんて、とくべつなことだと思って、とくいになりました。



137 やかまし村はいつもにぎやか

アストリッド・リンドグリーン 作  
大塚 勇三 訳 岩波書店 978-4-00-114130-6

オッレの歯が1本ぐらぐらしています。先生は、明日までにぬいてくるようにいいました。オッレは歯をぬくのが大きらい。糸を歯にしぼりつけてひっぱり、ためいきをついています。「もう7時だのに、きみの歯は、まだぬけてないぜ」「ぬいちまえよ！」ラッセとボッセがいました。

ちしきのほん

138 はははのはなし

加古里子 文・絵 福音館書店  
978-4-8340-0319-2

「は」がいたくてないている子がいます。こんなにいたいなら、「は」なんかなければいいのに。でも「は」がないとごちそうがたべられない。ごちそうがたべられないとえいようがとれなくて、「は」もよわくなってしまふ。つよい「は」を作るにはどうしたらいいでしょう？



# ち え

## 139 ありがたいこってす!

マーゴット・ツェマック 作 わたなべしげお 訳  
童話館 978-4-924938-27-4

まずしい男が8人の家ぞくと小さな家にすんでいました。ひとへやしかなないので、毎日いいあらそいばかり。がまんできなくなった男は、ラビにちえをかりに行きました。ラビはいいました。「家にかえり、ヒナドリとオンドリとガチョウを中に入れて、いっしょにくらしなされ」



## 142 ポルコさまちえばなし

ロバート・デイヴィス 文 瀬田貞二 訳 岩波書店  
978-4-00-110308-3

むかし、スペインにブタのポルコさまが住んでいました。こまったことがあれば、けものでも人間でも、ポルコさまに助けてもらえるのです。あるこさめの夜、だれかが家の戸をたたきました。「おはいいり」とポルコさまがいうと、ずぶぬれの男の子が入ってきました。



## 143 ジャングルの少年

チボール・セケリ 作 松岡達英 画 高杉一郎 訳  
福音館書店

アマゾン河で船が座礁し、わたしたち乗客はジャングルにひなんした。ぼうぜんとしてしていると、ジャングルに住む少年が野性の七面鳥をしとめてくれた。少年は、ほしいものはみんな森のなかにあると言って、水づるの中の水をのむように教えたり、ヤシの葉でロープを作ったりした。



## 140 さんねん峠

李錦玉 作 朴民宜 絵 岩崎書店  
978-4-265-91021-2

さんねん峠とうげでころぶと3年しか生きられないといういつたえがありました。ところがある日、おじいさんがころんでしまいました。その日から、おじいさんはびょうきになりますが、すいしゃやのトルトリが「おいらのいうとおりにすれば、びょうきはきつとなおるよ」といいました。

## 141 あたまをつかった小さなおばあさん

ホープ・ニューウェル 作 山脇百合子 画 松岡享子 訳  
福音館書店 978-4-8340-0242-3

むかし、びんぼうなおばあさんがいました。こまったことが起きると、いつも頭をつかって、ばんじょうまくやっていました。まず、ぬれタオルで頭をしばり、それからいすにすわって、ひとさし指を鼻の横に当てて、目をつぶります。そうするとどうすればよいかわかるのです。



### ちしきのほん

## 144 どうぶつフムフムずかん

マリリン・ベイリー 文 ロミ・キャロン 絵  
福本友美子 訳 玉川大学出版部  
978-4-472-40392-7

大きなゾウガメのこうらに、小鳥のフィンチがとまっています。こうらについたダニをついばんでいるのです。フィンチはエサがもらえるし、ゾウガメは体がきれいになるし、おたがいに助け合っています。こんなふうにかしこい動物たちがたくさんいます。



## そのほかの本

### うみ

スイミー🌿 レオニ作 谷川俊太郎訳 好学社 978-4-7690-2001-1  
ターちゃんペリカン🌿 フリーマン作 さいおんじさちこ訳 ほるぷ出版  
978-4-593-50007-9  
やまばあさん海へ行く🌿🌿 富安陽子作 理論社 978-4-652-01146-1  
海底二万里 上下🌿🌿🌿 ヴェルヌ作 私市保彦訳 岩波書店  
978-4-00-114572-4, 978-4-00-114573-1  
灯台守のバーディ🌿🌿🌿 ホブキンソン作 ルート絵 掛川恭子訳 BL出版  
978-4-7764-0199-5

### とべたらいいな

旅するベッド🌿 バーニンガム作 長田弘訳 ほるぷ出版 978-4-593-50415-2  
ネコとクラリネットふき🌿 岡田淳作 クレヨンハウス 978-4-906379-58-3  
クッキーのおうさまそらをとぶ🌿 竹下文子作 あかね書房 978-4-251-04024-4  
きょうはすてきなそらとびびより🌿 ターンバル文 ブラウン絵 たなかまや訳 評論社  
978-4-566-00323-1  
とびねこヘンリー🌿🌿 カルホーン文 イングラム絵 猪熊葉子訳 リブリオ出版  
978-4-86057-279-2

### たび

空とびじゅうたん🌿 ブラウン再話・絵 松岡享子訳 アリス館 978-4-7520-0424-0  
たからもの🌿 シュルヴィッツ作 安藤紀子訳 偕成社 978-4-03-201530-0  
龍の子太郎🌿🌿 松谷みよ子作 講談社 978-4-06-147010-1  
ポリッセーナの冒険🌿🌿 ピッツォルノ作 長野徹訳 徳間書店 978-4-19-861953-4  
シンドバッドの冒険🌿🌿 ゼーマン文・絵 脇明子訳 岩波書店 978-4-00-110858-3

### しごと

ロバの子シュシュ🌿 フランソワーズ作・絵 ないとうりえこ訳 徳間書店  
978-4-19-861437-9  
ぞうのオリバー🌿 ホフ作 三原泉訳 偕成社 978-4-03-313540-3  
メアリー・スミス🌿🌿 ユーレン作 千葉茂樹訳 光村教育図書  
978-4-89572-640-5  
きつねものがたり🌿🌿 ヨゼフ・ラダ作・絵 内田莉沙子訳 福音館書店  
978-4-8340-0058-0  
歯みがきつって億万長者🌿🌿🌿 メリル作 岡本さゆり訳 偕成社 978-4-03-631140-8

### じめんのした

もぐらのホリーともぐらいいも🌿 あさみいよ作 偕成社 978-4-03-331420-4  
みどりいろのたね🌿 たかどのほうこ作 福音館書店 978-4-8340-0767-1  
ねずみじょうど🌿 瀬田貞二再話 丸木位里画 福音館書店 978-4-8340-0259-1  
どぶねずみ大戦争🌿🌿 シュワルツ作 山脇恭訳 童話館出版 978-4-924938-79-3  
銀のいす🌿🌿🌿 ルイス作 瀬田貞二訳 岩波書店 978-4-00-115024-7

### いたすら

いたすらかいじゅうピリー！🌿 ハッチンス作 いぬいゆみこ訳 偕成社  
978-4-03-202470-8

ピーター・ラビットのおはなし🌿 ポター作・絵 いしいももこ訳 福音館書店  
978-4-8340-1855-4

いやいやえん🌿 中川李枝子作 福音館書店 978-4-8340-0010-8  
悪魔の物語🌿🌿🌿 バビット作・絵 小旗英次訳 評論社 978-4-566-01274-5  
元気なモファットきょうだい(屋根うらべやのゆうれい)🌿🌿🌿 エスティス作 渡辺茂男訳  
岩波書店 978-4-00-114115-3

### かわ

かわ🌿 加古里子作画 福音館書店 978-4-8340-0067-2  
おっきょちゃんとかっぱ🌿 長谷川摂子文 降矢奈々絵 福音館書店  
978-4-8340-1464-8  
しずくのぼうけん🌿 テルリコフスカ作 プテンコ絵 うちだりさこ訳 福音館書店  
978-4-8340-0208-9  
たのしいスケート遠足🌿🌿 ファン・ストックム作画 ふなとよし子訳 福音館書店  
978-4-8340-2447-0

少年たちの夏🌿🌿🌿 横山充男作 ポプラ社 978-4-591-06635-5

### おどり

おいしそうなバレエ🌿 マーシャル文 センダック絵 さくまゆみこ訳 徳間書店  
978-4-19-861756-1  
アンジェリーナはバレリーナ🌿 ホラバード文 クレイグ絵 おかだよしえ訳 講談社  
978-4-06-189229-3  
バレエなんて、きれい🌿🌿 ジェイコブソン作 武富博子訳 講談社  
978-4-06-214504-6  
バレエダンサー 上下🌿🌿🌿 ゴッデン作 渡辺南都子訳 偕成社  
978-4-03-744320-7, 978-4-03-744330-6  
パディントンのラストダンス🌿🌿🌿 ボンド作 田中琢治、松岡享子訳 福音館書店  
978-4-8340-2382-4



### ゆかいながっこう


こぐま学校のバザー🌿 カートリッジ作 せなあつこ訳 偕成社 978-4-03-201270-5  
いつもちこくのおとこのこ🌿 バーニンガム作 たにかわしゅんたろう訳 あかね書房  
978-4-251-00517-5  
ひらめきルーカス学級委員はだれだ?!🌿🌿 ハーウィッツ作 安藤紀子訳 偕成社  
978-4-03-608310-7  
びりっかすの神さま🌿🌿 岡田淳作・絵 偕成社 978-4-03-639460-9  
菜の子生がやってきた!🌿🌿 富安陽子作 福音館書店 978-4-8340-0620-9

### とくぎ



じごくのそうべえ🌿 田島征彦作 童心社 978-4-494-01203-9  
神の道化師🌿🌿 デ・パオラ作 ゆあさふみえ訳 ほるぷ出版 978-4-593-50140-3  
天からのおくりもの🌿🌿 マーティン文 ウィンガーター絵 掛川恭子訳 BL出版  
978-4-7764-0093-6  
ぶたのめいかしゅロランド🌿🌿 スタイグ著 せたていじ訳 評論社  
978-4-566-00100-8  
シルクの花🌿🌿🌿 マースデン作 代田亜香子訳 鈴木出版 978-4-7902-3210-0



**のうじょう**

ねこのオーランドー農場をかう   ヘイル作・画 協明子訳 童話館出版  
978-4-924938-68-7


ちゃぼのバンタム  ファティオ文 デュボアザン絵 乾侑美子訳 童話館出版  
978-4-924938-41-0



ワビシーネ農場のふしぎなガチョウ   キング=スミス作 三原泉訳 あすなる書房  
978-4-7515-1907-3



フライディさんのシャベル   コナー文 アゼアリアン絵 千葉茂樹訳 BL出版  
978-4-7764-0136-0

ハコの牧場   北村恵理著 福音館書店 978-4-8340-2190-5




**ふね**

ベンジーのふねのたび  グレーム作・絵 わたなべしげお訳 福音館書店  
978-4-8340-0780-0


赤いカヌーにのって   ウィリアムズ作 斎藤倫子訳 あすなる書房  
978-4-7515-2268-4


スチュアートの大ぼうけん   E.B.ホワイト著 さくまゆみこ訳 あすなる書房  
978-4-7515-1887-8



ツバメ号とアマゾン号 上下   ランサム作 神宮輝夫訳 岩波書店  
978-4-00-114170-2, 978-4-00-114171-9






ニワトリ号一番のり    メイスフィールド作 木島平治郎訳 福音館書店  
978-4-8340-0107-5

**にんぎょう**


つきよのぼうけん  A. アーディゾーニ文 E. アーディゾーニ絵 なかがわちひろ訳  
徳間書店 978-4-19-861927-5


おもちゃ屋へいったトムテ  ベスコフ作 菱木晃子訳 福音館書店 978-4-8340-1569-0


かりんちゃんと十五人のおひなさま   なかがわちひろ作 偕成社 978-4-03-528370-6



紙人形のぼうけん   マーヒー作 清水真砂子訳 岩波書店 978-4-00-115551-8  
「サン・フェアリー・アン」    『天国を出ていく』から ファージョン作 石井桃子訳  
岩波書店 978-4-00-114083-5



**ふく**

きつねのホイティ  ウェッタシン八作 まつおかきょうこ訳 福音館書店  
978-4-8340-0198-3


グロースターの仕たて屋  ポター作・絵 いしいももこ訳 福音館書店  
978-4-8340-1869-1



はだかの王さま  アンデルセン作 パートン絵 乾侑美子訳 岩波書店  
978-4-00-110876-7



いたずらおばあさん   高樓方子作 フレーベル館 978-4-577-01526-1

アンナの赤いオーバー   ジーフェルト文 ローベル絵 松川真弓訳 評論社  
978-4-566-00288-3

**いえ**

マンヒのいえ  クォン・ユンドク絵・文 みせけい訳 セーラー出版  
978-4-88330-127-0


かきねのむこうはアフリカ   ムイヤールト文 ヘグルンド絵 佐伯愛子訳 ほるぷ出版  
978-4-593-50405-3


ねずみの家   ゴッデン作 おびかゆうこ訳 徳間書店 978-4-19-861420-1


グリーンノウの子どもたち    ボストン作 亀井俊介訳 評論社  
978-4-566-01261-5

思い出のマーニー 上下    ロビンソン作 松野正子訳 岩波書店  
978-4-00-114110-8, 978-4-00-114111-5




**りんご**

白雪姫と七人の小人たち  グリム作 バーカート画 八木田宜子訳 富山房  
978-4-572-00361-4


おぼけりんご  ヤーノシュ作 やがわすみこ訳 福音館書店 978-4-8340-0185-3


りんごのえほん  ネースルンド作 ディーグマン絵 たけいのりこ訳 偕成社  
978-4-03-348030-5

りんごのたねをまいたおひめさま   レイ作・絵 河野万里子訳 徳間書店  
978-4-19-862773-7



ささやき貝の秘密    ロフティング作 山下明生訳 岩波書店 978-4-00-112134-6



**ぼうし**

めうしのジャズミン  デュボアザン作・絵 乾侑美子訳 童話館出版  
978-4-924938-63-2



ぼうし  ウングラー作 たむらりゅういち、あそうくみ訳 評論社  
978-4-566-00839-7



マジシャンミロのふしぎなぼうし  エイジー作 石崎洋司訳 講談社  
978-4-06-283025-6




チキン・サンデー   ポラッコ作 福本友美子訳 アスラン書房 978-4-900656-20-8




車のいろは空のいろ 1 白いぼうし   あまんきみこ作 ポプラ社  
978-4-591-08929-3




**いし**

「はいいろの小石」   『月あかりのおはなし集 続』から アトリー作 こだまともこ訳  
小学館 978-4-09-290512-2


「石になった狩人」   『子どもに語るモンゴルの昔話』から 蓮見治雄訳・再話  
平田美恵子再話 こぐま社 978-4-7721-9041-1


カモメがおそう島    ピウミー二作 高島恵美子訳 文研出版  
978-4-580-81252-9


石の花    バジョーフ作 佐野朝子訳 岩波書店 978-4-00-113111-6



肥後の石工    今西祐行作 岩波書店 978-4-00-114078-1




**たね**

どんぐりかいぎ  こうやすすむ文 片山健絵 福音館書店 978-4-8340-1333-7

ふしぎなお人形ミラベル  リンドグリーン作 リンデンバウム絵 武井典子訳 偕成社  
978-4-03-327930-5

ティッチ  ハッチンス作・絵 いしいももこ訳 福音館書店 978-4-8340-0449-6

ウエズレーの国   フライシュマン作 ホークス絵 千葉茂樹訳 あすなる書房  
978-4-7515-1975-2

種をまく人    フライシュマン著 片岡しのぶ訳 あすなる書房 978-4-7515-1805-2

## とけい

ヒギンスさんととけい ハッチンス作 たなかのぶひこ訳 ほるぷ出版  
978-4-593-50447-3

時計坂の家 高樓方子著 リブリオ出版 978-4-89784-319-3

ぼっぺん先生と帰らずの沼 舟崎克彦作 岩波書店 978-4-00-114071-2

モモ エンデ作・絵 大島かおり訳 岩波書店 978-4-00-110687-9

トムは真夜中の庭で ピアス作 高杉一郎訳 岩波書店 978-4-00-110824-8

## たまご

ふわふわしっぽと小さな金のくつ ヘイワード作 フラック絵 羽島葉子訳 PARCO出版  
978-4-89194-348-6

はらぺこパンタ 武井博作 講談社 978-4-06-197810-2

たまごからうま 酒井公子再話 織茂恭子絵 偕成社 978-4-03-963790-1

魔女のたまご エドモンドソン作 掛川恭子訳 あかね書房 978-4-251-00501-4

どきどき卵そどう ケナー作 岡本浜江訳 文研出版 978-4-580-81235-2

## なまえ

火のくつと風のサンダル ウェルフェル作 関楠生訳 童話館出版  
978-4-924938-75-5

「エルフィンストーンの石工」 『月曜日に来たふしぎな子』から リーズ作 神宮輝夫訳  
岩波書店 978-4-00-114104-7

ジェーンはまんなかさん エスティス作 渡辺茂男訳 岩波書店  
978-4-00-114116-0

ぼくがウィリアムと名づけたわけ ケンプトン作 清水奈緒子訳 文研出版  
978-4-580-81500-1

影との戦い ル=グウィン作 清水真砂子訳 岩波書店 978-4-00-110684-8

## 歯

歯いしゃのチュー先生 スタイグ文・絵 うつみまお訳 評論社 978-4-566-00290-6

おはようスーちゃん ロビンソン作・絵 中川李枝子訳 アリス館 978-4-7520-0372-4

アフリカないしょだけどほんとだよ 竹下文子作 ポプラ社 978-4-591-07872-3

ねずみとおうさま コロマ神父文 石井桃子訳 岩波書店 978-4-00-115103-9

ふくろ小路一番地(赤んぼコンクール) ガーネット作 石井桃子訳 岩波書店  
978-4-00-114159-7

## ちえ

ずいとんさん 日野十成再話 斎藤隆夫絵 福音館書店 978-4-8340-2151-6

かしいポリーとまぬけなおおかみ ストー作 佐藤涼子訳 金の星社  
978-4-323-00486-0

「かしいモリー」 『子どもに語るイギリスの昔話』から ジェイコブズ再話  
松岡享子編・訳 こぐま社 978-4-7721-9050-3

天からふってきたお金 ケルジー文 岡村和子訳 岩波書店 978-4-00-110309-0

世界のなぞかけ昔話 1 シャノン文 福本友美子訳 晶文社 978-4-7949-2655-5

## さくいん (50音順)

は読み聞かせに向く絵本 は、知識の本です。

あ	ああ、たいくつだ！	7	おすのつぼにすんでいたおばあさん	87
	合言葉はフリンドル	131	おともだちにナリマ小	50
	あおい目のこねこ	13	おばあさんのひこうき	8
	赤鬼エティン	112	お姫さまとゴブリンの物語	29
	赤ちゃんをほしがったお人形	75	オンネリとアンネリのおうち	88
	朝びらき丸東の海へ	71	か 風のまにまに号の旅	70
	あたまをつかった小さなおばあさん	141	川はながれる	38
	あたまにつまった石ころが	104	き 聞き耳すきん	100
	あたまのうえにりんごがいくつ？	92	く クジラ	6
	あな	25	くまのパディントン	128
	アナベル・ドールの冒険	77	ぐらぐらの歯	136
	アライグマ博士と仲間たち	39	クローカ博士の発明	51
	ありがたいこってす！	139	こ 小石投げの名人タオ・カム	105
い	イエベはぼうしがだいすき	97	腰折れすずめ	112
	石のねずみ	106	こども鉱物図鑑	108
	いたずらっ子オーチス	34	子どもに語るアジアの昔話 2	105
	1ねん1くみの1にち	54	子どもに語る日本の昔話 2	100
	いっしょにつくろう	78	子ブタシーブピッグ	23
う	海へ出るつもりじゃなかった	5	さ 里山のおくりもの	66
	海時計職人ジョン・ハリソン	120	さんねん峠	140
	海のおばけオーリー	2	し シェバートン大佐の時計	119
	海のとまご	125	鹿踊りのはじまり	47
	うみのべっそう	3	地面の下のいきもの	30
	うみべのハリー	1	シャーロットのおくりもの	63
	海べのあさ	135	ジャングルの少年	143
	うんがにおちたうし	37	人名のひみつ	132
え	絵かきさんになりたいな	55	す すずめのおくりもの	49
	エルシー・ピドック、ゆめでなわとびをする	58	すずめのくつした	81
	エルマーのぼうげん	9	ズボンとスカート	84
お	王への手紙	17	すんだことはすんだこと	19
	王さまと九人のきょうだい	57	せ 精霊の守り人	16
	大うさぎのヘアーとイースターのたまご	124	世界あちこちゆかいな家めぐり	90
	おおかみと七ひきのこやぎ	115	戦争をくぐりぬけたおさるのジョージ	18
	おおきなきがほしい	86	そ ぞうのホートンたまごをかえす	122
	屋上のとんがり帽子	102	そらいろのたね	109
	おじいさんならできる	80	た だいくとおにろく	127
	おしゃべりなたまごやき	121	大帆船	72

## 先生方や子供の読書に関わる方へ

このブックリストでは、都立多摩図書館が選んだ小学生が楽しめる本をテーマ別に紹介しています。

- ・小学生のための冊子です。子供たちがこのリストから読みたい本を探したり、本への興味を育てることができます。
- ・海やいたずら、人形など小学生が興味を持つテーマをそろえています。
- ・「ほん・本・ごほん1」及び「ほん・本・ごほん2」と併せて活用すると、基本的な絵本と文学をそろえることができます。
- ・図書館や学級などにこの小冊子を置いて、所蔵している本に、請求記号や棚番号などを付けると、子供が探しやすくなります。
- ・ブックトークや学習に対応した資料紹介に使えます。
- ・読み聞かせや朝の読書に本を選ぶときの参考になります。
- ・小冊子の中のテーマを使って、本の展示をするなど、1箇所にもまとめて本を並べると、子供の興味を引き出すことができます。
- ・是非ここに挙がっている本を購入して、図書室を充実させてください。
- ・テーマ別に紹介した6冊の中には入手できないものもありますが、「そのほかの本」はすべて、購入が可能です。（発行時点）
- ・現在購入可能な本には、ISBN（出版社名の後に付した978から始まる13桁の数字）を記載しました。
- ・リストに掲載された本を購入する場合は、「購入用シート」が便利です。都立多摩図書館までご連絡ください。

読書活動に活用するために、この小冊子を希望する学校は、都立多摩図書館までご相談ください。

宝島	4	ひ 飛行機の歴史 知	12
ただいまお仕事中 知	24	ひとりっ子エレンと親友	46
ダチョウのくびはなぜながい? 読	133	百まいのドレス	82
たのしいおまつり 知	48	ふ ふしぎな500のぼうし 読	99
たのしい川べ	40	不思議の国のアリス	118
たのしいムーミン一家	101	ブリジンガメンの魔法の宝石	107
たまがわ 知	42	へ ペニーさんと動物家族	62
たまごのひみつ 知	126	ベレのあたらしいふく 読	79
たるとなーちゃん 読	110	ペーロチカとタマーロチカのおはなし	32
ち ちいさいおうち 読	85	ほ ぼうしのおうち 読	98
地下の洞穴の冒険	28	ぼくは恐竜造形家 知	60
ちびっこタグポート	68	ポケットのジェーン	76
チムとゆうかんなせんちょうさん 読	67	ポルコさまちえばなし	142
注文の多い料理店	47	ま まいごになったおにんぎょう 読	73
て ティリーのねがい	74	マウルスとマドライナ	14
てじなでだまっしこ 知	36	魔女学校の一年生	52
点子ちゃんとアントン	130	町かどのジム	69
と どうぶつフムフムずかん 知	144	み ミオよわたしのミオ	95
時計つくりのジョニー 読	117	みしのたくかにと	111
トム・ソーヤーの冒険	35	ミス・ヒッコリーと森のなかまたち	94
飛んだ子ブタダグギ	10	みどりのゆび	59
に にぐるまひいて 読	61	む ムギと王さま	113
ニルスのおふしぎな旅	11	め メアリー・アリスいままんじ? 読	20
人形の家	89	も 木馬のぼうけん旅行	15
ね ねこのくにおおきやくさま 読	43	モグラ原っぱのなかまたち	33
ネコのタクシー	22	もりのへなそうる	123
ねずみのとうさんアナトール 読	21	や やかまし村はいつもにぎやか	137
根っここのこどもたち目をさます 読	26	ヤンとスティッピー 読	44
ねぼすけはとどけい	116	ゆ ユウキ	129
の 農場の少年	65	指ぬきの夏	64
野をわたる風にのる 読 知	114	り 竜退治の騎士になる方法	53
のねずみチュウチュウおくさんのおはなし	27	りんご 知	96
は はははのはなし 読 知	138	りんごのき 読	91
ハヤ号セイ川をいく	41	リンゴの木の上のおばあさん	93
ハリスおばさんパリへ行く	83	ろ ろけっとこざる 読	31
バレエをおどりたかった馬	45	ロバのシルベスターとまほうの小石 読	103
番ねずみのヤカちゃん	56	わ わにのはいた	134